

現代アート覚え書き 2015—北京・香港・東京

Memorandum of Contemporary Art in 2015 –Beijing, Hong Kong, Tokyo

牧 陽 一*

Yoichi MAKI

2015年、筆者のアートにまつわる行動、観覧した美術展や開催した講演や対談を中心にまとめておきたい。2015年は安保法案の強行採決や辺野古基地の強制建設、原発再稼働をはじめとした安倍政権の独裁的行動が目立つ一年であった。この一年にアートの側はどのような活動をしたか、そこには如何なる意味があったのかを考えてみたい。当日の日記を貼り付けてから、現在の思考を繋いでいく形式をとりたい。

1月19日（月）江古田のギャラリー古藤で開催されている「表現の不自由展」を見て来た。安世鴻（アン・セホン）の日本軍慰安婦だったお婆さん達の写真、キム・ソギョン&キム・ウンソンの平和の少女像 2011 など、何らかの理由で美術館・写真展・冊子などから展示・掲載を拒否された作品を集めている。（会期 1/18-2/1 実行委員会：永田浩三、岡本有佳共同代表）ⁱ

日本軍慰安婦問題は現政権の隠蔽するもので美術の側からの意思表示として貴重だ。2014年に赤瀬川原平が亡くなっている。赤瀬川もまた同名の「表現の不自由展」を開催している。ⁱⁱ2015年は表現の自由をめぐるアートのあり方を思考するための数々の美術展をめぐるこ

ととなった。ⁱⁱⁱ

ニコンは2012年5月までに、東京と大阪の「ニコンサロン」で安世鴻の日本軍慰安婦をテーマにした作品の展示を認めた。ところが新聞に告知記事が載ると批判の電話が入り、ネット上にはニコン製品の不買運動の呼び掛けが書き込まれた。このためニコン側は写真展を中止した。安世鴻さんはニコンが写真展を一方的に中止したのは違法だとして、賠償などを求めた。2015年12月25日東京地裁は判決で、ニコンに賠償命令を出した。

中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たちの写真作品である。作品は彼女らの苦難に満ちた生涯を映し出している。「戦争が終わり、彼女たちは残された中国の荒れ地に根をおろし孤独な死闘がはじまり 70 余年慣れない異国で彼女たちは恨（ハン）のこびりついた生命力で持ちこたえてきた」^{iv}刻み込まれた皺、質素な生活用品の数々、彼女たちの生活を想像する。故郷に帰ることも出来ず、知らない土地で差別に耐えて生きていかなければいけなかった。この人たちはまるでモノの様にずっと放って置かれたのだ。

「表現の不自由展」実行委員会共同代表の岡本有佳は少女像（正式名称は「平和の碑」）につ

* まき・よういち

埼玉大学大学院人文社会科学研究所教授、中国現代文化

いて以下のように述べている。「ソウルの日本大使館前の少女像には影がある。長い時間が流れて少女がハルモニになった影だ。ハルモニたちの憤りと恨6が積み重なった時間の影。胸にとまった白い蝶は亡くなったハルモニが生き返りともに居ることを表す。- (少女像の) 踵がすり切れた裸足の足は険しかった人生を、地面を踏めず少し浮いた踵は彼女たちを放置した韓国政府の無責任さ、韓国社会の偏見を問う。」^v

つまり単に日本軍や日本政府の責任を問いたすばかりではなく、問題を放置したままだった韓国政府への批判も込められているのである。日本か韓国かという政治的問題ではなく戦争の犠牲者つまりは庶民であり個人の心情を問題にしている。日本にも展示してほしいものだ。安世鴻さんの作品同様これはアートのアート足りうる点で重要だろう。



3月14日(土) 午前中はフェイクスタジオで艾未未(アイ・ウェイウェイ)さんと1時間ほどジェンダーの事など話した。水餃子食べながら。^v昼過ぎに左小祖兪(ズージョウ)さんに連絡して行った。玉子と青菜の麺。うまし。新しいDVDを見ながら雑談した。2時間ほど。そのまま草場地のギャラリーを少し見してから、帰った。タクシー22元 昼ご飯2回食べさせてもらった。中国に来ると食べ物頂くことが中心。

艾未未はろくでなし子事件について以下のように述べている。

A(艾未未): 具体的にはどんな罪なの?

M(牧陽一): わいせつ磁気記録頒布罪です。

A: 中国でもそんな罪があるけど、具体的に何をしたの? 研究材料にしようかなってね。

M: 寄付してくれた人に自分のまんこの3Dデータをダウンロードさせたのです。その賛助金でまんこを拡大したカヤックを作って川に漕ぎ出しました。

A: 自分のまんこの3Dのデータだね。

M: お金を寄付した人はダウンロードできます。30人ぐらいダウンロードしました。

A: たった30人? 今はできないの? なんで? 何で日本の警察はそんなことを取り締まるの? 大事な事がいっぱいあるのに。尖閣のこともかまわないうで、個人的なアーティストのことを取り締まるなんて。病気だな。

M: 彼ら警察はろくでなし子さんをアーティスト

トとはみなしていません。

A:日本にはわいせつなものがたくさんあるだろうに。

M:彼女の作品は芸術ではないというのです。女性のまんこはわいせつだと言うのです。

A:まず身体の一部ということだ。男であれ女であれ、耳であれ指であれ、性器であれ全て生命の一部だ。そこには上下も卑賤もないし、羞恥もない。そういう問題は存在しない。身体のプロテクターでなければ自分の身体の如何は個人自身が決めることだ。しかし社会はあれこれいつてくる。その理由が原則を侵犯する場合、法律はこの問題に関わってはいけない。法の原則では、芸術家あるいはある人個人には自己の身体をどのように使うかを定める権利がある。ここには正義など必要ではない。世界を見渡せば相対的に宗教化された社会を見ることがある。それは閉鎖的で単一化した社会だ。そこでは性に対する恐れがある。歴史上の変化の度、哲学上美学上の変化は常に性と関わっている。文芸復興にせよモダニズムにせよシュルレアリスムにしても1960年代のロックまでも全てが性の解放と関係がある。性の解放とは自らの嗜好に合わせて性の傾向、好み、方法を選ぶ権利があるということだ。性の認識もまた人類の自己認識の一部だ。性への認識と理解がなければ、人類が自己を理解することはできない。なぜ性の解放と自由が必要なのか、それはフェミニズムの一部であるばかりではなく、人類の進歩の一部でもあるからだ。

・・・

A:社会道徳全体で、男は女を自分の財産や社会地位の一部とみなして所有している。女性器も私有化されているのだ。男性が女性を支配していると誤解している。

また艾未未も参加した後に述べる Chim↑Pom らの Don't follow the wind 展については以下のように述べている。

M:Chim↑Pom らの美術展に参加していますね。

A:ああ、半年前ぐらいに尋ねてきたよ。(実際は9か月前の2014年7月16日)

M:福島の放射能危険地域での展覧会。見たくても見ることができない。どんな作品ですか？

A:昼間の太陽光で蓄電した電気で夜に千軒の家屋に電気が灯る。そのうち二軒には私の生活の写真が展示してあるんだ。危険地域には入れなくても彼らには映像などで公表しろといったのだが、秘密にするという。なぜなんだろう？

M:パスポートは返してもらえないのですか？

A:彼女(ろくでなし子)のまんこのポートで密航するか？尖閣のパスポートでもほしいな。

M:何人もパスポートを取られていますね。

A:多いよ。チベット人なんか誰も国外へいけないよ。新疆ウイグル人だって。日本政府以上に狂った政府だよ。

M:確かにいかれてる。

3月23日(月) 吉祥寺でろくでなし子さん、須見健矢、山口貴士ら弁護士にお会いする。東京地方裁判所に提出する意見書を4月中に書くことにする。また埼玉大学で講演会を企画する。さらに6月の北京行きを計画することになる。

5月18日(月) 埼玉大学で講演会、ろくでなし子「ワイセツってなんですか？」を開催する。女性器の呼称の歴史と、ろくでなし子事件の経過について説明している。ろくでなし子さんは1980年代にNHK教育TVで放送された女性器の呼称に関する番組「女性器の名前」(永田浩三担当)のVTRを紹介した。ここで民俗学者鈴鹿千代乃は現在ではタブー視され卑下されてい

る女性器が、古代ではむしろ神聖視されていたことを、古代の天皇家の娘の名前に女性器の呼称を使っていることを例に主張している。^{vii} ろくでなし子さんの考え方は女性器を蔑視するのでもなく神聖化するのでもなく、平等に客観的に見ることだと思われる。女性器を猥褻と見なすことは正に女性への蔑視にも繋がっている。こうした意味でろくでなし子裁判の意義も大きい。筆者自身の意見書はすでに発表した^{viii}が、ろくでなし子アートはアートプロジェクトとして、グローバルコミュニケーションの場を提供している。さらにろくでなし子アートは自己認識という哲学的命題、生命、反差別、反暴力、反戦、平和というメッセージを伝える芸術作品であり、ワイセツとは全く関係がない、と述べている。^{viii}

6月10日(水)、北京で「艾未未展」を見る。
^{ix}6月11日(木) 午前中にホテルで艾未未(アイ・ウェイウェイ)さんに会って、アイさんとろくでなし子さんの対談を実現する。^x午後は天安門、前門大柵欄で狗不理の肉まんを食べて夜は草場地赤レンガの前波画廊で13日のオープン前にアイさんの作品を見た。^{xi}

作品について筆者は ARTiT の連載で書いている。常青画廊と唐人芸術中心を突き通して再建された400年前明代の汪家の祠については、1つは民衆の側からの文化の復興を中心テーマと考⁹えた。もう一点⁹、ふたつの画廊を貫いていることについては、「唐人芸術の方には常青画廊の方の様子を映像で映し出している。観衆は全

体像を見ることはできない。記憶をたどるか、想像するしかない。この空間の断絶は正に中国の内と外を象徴的に描いてはいないだろうか？ SNS も使えない。7月9日以降、弁護士ら活動家が200人以上理由も明らかにされないまま一斉に逮捕拘留された。世界から隔絶された現在の中国の現状を批判的に表出しているのではないだろうか？³とのべている。

艾未未とろくでなし子の対談の企画実行について筆者は以下のように述べた。

「そして、まんごときで逮捕拘留される日本と、まんごときでは逮捕されないが、政府批判をちょっとでも囁けば逮捕される中国を対照的に捉えることができた。一見、大きな違いにも見えるが、実は政権にとっては猥褻も反政府も確実に繋がっている。どちらの罪にしろ、権力者が邪魔者を抹殺するために援用されるのだ。中国と日本の状況はそう大きな開きがあるのではなく、日本の安倍政権も独裁政権に限りなく近い。表現の自由の規制は言論の自由の規制と繋がっているはずだ。

そしてもう一点は係争中であっても海外旅行できるということを示したかった。ろくでなし子さんは裁判の合間を縫って北京へ行くことができた。艾未未さんは脱税容疑で係争中かもしれないが、パスポートを奪われ、海外へ出られない。この事実を確認することにより、中国政府は人権を蹂躪しているということを明確に示すことができた。」



6月22日(月) 艾未未はインスタグラムで「監禁から4年目、81日間監禁されていた場所を見つけた」とその建物の写真を公表した。解放軍の施設であった可能性がある。

7月22日(水) 艾未未のパスポートが返還された。この時、筆者は以下のように述べている。「艾未未への弾圧が解かれた要因は、こうした政府の時代遅れで専制的な方法が広く世論の反発を招いていること、そしてその反発が大きく

なり政府へのプレッシャーとなった結果だと言える。艾を閉じ込めているよりは解き放した方が世界からの批判を逃れられると踏んだのだろう。艾は自分自身をチェスのプレーヤーだと言うように、中国政府が欧米の理解を求めるとき、世界の趨勢をうまく作用させた。一見体制批判の見いだせない個展の成功で、一旦は退いた様に見せたが、逆にコマを奪ったと言える。しかし艾の仲間のアーティスト趙趙が言うように中国政府による弾圧は変わっていない。7月

9日以来、中国全土で200人以上の弁護士や活動家が逮捕拘留されている。艾のパスポート奪回は小さな勝利にすぎない。今以上に思想・表現の自由を求めて戦うしかない。」^{xiii}

パスポート返還後、中国の言論界では様々な憶測が飛び交った。詳細については雑誌『アジア遊学』に書いた。^{xiii} 私見では艾未未が政府に投降したとは考えられない。政府批判はやや弱くはなったものの逮捕拘留された人権弁護士の釈放を求めるなど基本的な姿勢は変わってはいない。アーティストとして外側から客観的な意見をして、政策をコントロールする意図があると思われる。

2015年末から2016年の年始、艾未未はシリアやアフガンの難民が上陸するギリシャのレスボス島に行き、難民救助支援をしながら、彼らの生活を記録している。亡くなった難民のための記念碑を建てる計画もあるという。世界の今を中心に活動を始めている。

7月25日(土) 府中市美術館へ パルコキノシタさんの公開制作を見にいった。(会期：7月18日(土曜日)から11月3日(火曜日・祝日)まで) 学芸員の武居さん助手の瀬戸さんにもお会いした。現場を見られてよかった。^{xiv} パルコキノシタさんは東日本大震災の津波の波の中に少女が見え隠れする絵画作品を制作している。だが描いているのは過去ではなく、崩壊した未来の日本の姿なのだという。とすれば、単なる被害者への鎮魂の意味を超えて、現状への批判的態度も読み取ることが出来る。

7月31日(金) 塚本晋也監督『野火』を観る。

8月19日(水) 三潑アートギャラリーで艾未未

(アイ・ウェイウェイ) ビヨンドスタッフ展(会期 7.15-8.22) を、⁶

同日、東京都現代美術館で会田誠ほか「ここはだれの場所？」{会期：7・18(土) - 10・12(月・祝)}を観る。

BEYOND STUFF 展は艾未未と彼のスタッフのアーティストの作品展。趙趙 ZhaoZhao、李明鈔 LiMingzhu、夏星 XiaXing、何雲昌 HeYunchang。艾未未はMV「傻伯夷」やテーブルリック(1トンのお茶の小型のもの)、成都のホテルのエレベーター内での写真、上海現代芸術博物館で開催された中国現代美術賞(CCAA)の15周年記念展で艾未未の名前が削除され撤去された作品を、梱包されたままの状態で開催した。李明鈔は景德鎮の磁器で「毛を食べる」2004をつくっている。また何雲昌はパフォーマンスのビデオ作品を出品している。着衣の全てを24時間かけて燃やし尽くす「涅槃-肉体」2013、多数決で決めてから、1メートル自分の体を切り裂く「1メートルの民主主義」2010、自分の肋骨を1本切り取る「一本の肋骨」2008、肋骨から加工されたネックレスは作家にとって大切な5人の女性に送られた。何雲昌は涅槃、民主主義、聖書神話を肉体の痛みをもって体現する。夏星は魯迅選集16冊を裁断したものから「魯迅像」2004をつくる。また三原色から「後藤健二の肖像」2015をつくっている。^{xv}魯迅と後藤健二を並べるところに作家からの後藤の犠牲への疑義と敬意を滲ませている。

東京都現代美術館での会田誠ほか「ここはだれの場所？」展、会田誠一家の作品に対して美術館と東京都が撤去・改変を要請した事件を聞き及んでいた。結果、撤去にはならず予定通り展示は持続されたが、二人の学芸員らしき人物が

監視するかのよう会場にいたのが気になった。問題となったのは会田誠が安倍晋三首相のような姿で、たどたどしい英語で世界に「鎖国」を提案する『国際会議で演説をする日本の総理大臣と名乗る男のビデオ』や、会田家による文部科学省へ文句を書いた「檄」である。

スピーチの内容は、「We began imitating other powerful countries, we colonised those weaker nations surrounding us, and we began wars of aggression (意識：他の列強国を真似て、私たちは近隣の弱い国々を植民地化し、侵略戦争を始めました)」「There were a great many people whom we insulted, and we

wounded – and we killed… I am sorry!!!!

(同：私たちは数多くの人たちを、侮辱し、傷つけ――殺しました……申し訳ございません!!!)」というものだ。

安保法案を強硬に採決させ、日本を戦争の出来る国にしようとする、先のアジアへの侵略戦争を認めようとしない国粋主義者安倍晋三を揶揄している。

「檄」は三島由紀夫の最後の声明文を風刺している。内容は「もっと教師を増やせ」「特別支援教育がただの隔離政策みたいになってる」など、家族の愚痴のようなものを書いただけである。^{xvi}



8月21日(金) ポレポレ東中野で三上智恵監督「戦場ぬ止み」、高畑勲監督とのトークショーを聞く。

9月1日(火) 活化庁 九龍油麻地上海街 404 でジェンダー、ジェニター、ジェニタリアーろくでなし子トリビュート展 (期日：2015年8

月29日(土)～9月20日(日)を観て来た。キュレーターは長谷川仁美さん。

参加アーティストは以下の12組のアーティストである。

会田誠 Makoto Aida、LING & COMMA (Gao Ling 高靈 & Elaine W. Ho 何穎雅) 梁志剛 Michael

Leung、文晶瑩 Phoebe Man、ROBOT (Takuji Kogo 古郷卓司 及 John Miller)、Rokudenashiko (Megumi Igarashi 五十嵐恵)、林愷倩 Lam Hoi Sin、Sputniko!、鈴木涼子 Ryoko Suzuki、Yuk Kin Tan、陳美彤 Chan Mei Tung、黃嘉瀛 KY Wong、

会田誠は「青磁」(1997)の女性器、女性が全裸で「よかちゃん音頭」ならぬ「よかまん音頭」を歌うビデオ作品「よかまん」(2010)、女性器を象った2020年東京オリンピックメインスタジアム案(2015)を出品した。LING & COMMAは女性が立ったまま排尿できるようにつくった陶器「女泉」2009といっせいに排尿する女性たちの写真を、文晶瑩は女性器のキャラクター慧慧2000-2001のビデオ作品、Sputniko!は「生理マシン、タカシの場合」(2010)を、鈴木涼子はアニメの少女キャラクターを使ったANIKORA-Kawaii 03,06 (2009)、シリコンで自らの性器の型を取り、それを黒い鉄の小箱に入れた「悪夢(誰が私を真っ暗な暗渠に引き込んだか、私には探し出せる)」1997を出品した。ろくでなし子もまた性器を3Dプリンターで出力した作品(2015)を展示している。

鈴木涼子作品の副題にあるように女性器を明るく解放することが、それぞれの作品の主眼となっている。

陳美彤はパフォーマンスビデオ「私を拡大して」(2014)を出品した。かねてからスマートフォンやタブレットの指で拡大する動作が卑猥だと思っていた彼女は裸体の両胸の上と股間3ヶ所に、乳房と女性器を映し出したタブレットを装着し、観客に2本の指でその画像を拡大させた。さらにスタジオを裸体のままに緊張なおももちで歩いていく。—最後にアクシデントが起きた。一人の男性が歩み出て毛糸の帽子を彼女に被せ、彼女の首にマフラーを巻いた。彼女の緊張は解けて、満面の笑みがこぼれた。一人の

弱い少女へと戻ったのだった。

筆者にはフェミニズムとアートの邂逅の瞬間に思われた。またソウルの日本大使館前の「平和の少女像」にも寒い日には毛糸の帽子、マフラーが掛けられ、素足だからと靴が置かれていたことを思い起こした。地蔵にも近所の人が帽子や笠をさせるように像への愛情がそうさせる。パフォーマンス、現代アート、土着信仰どこにも共通する見る側からの想いがそこに表れる。ただ声高に女性への差別を訴えるのではないアートの方法をここに見出せるだろう。真に「美術の力」だと言えよう。

9月2日(水) 夕方、Para Site 藝術空間(香港鰂魚涌英皇道677號) 榮華工業大廈22樓へ。けっこういい展示もしていた。それからアーティストトーク、ろくでなし子さんは相変わらずいい笑をもらっていました。ガンダまんがうけていた。まんこアートは世界共通グローバルだ。陳美彤のトークもあった。いいパフォーマンス作品をつくっている。

Para Siteでの美術展は「もし市(まち)の籍だけで国籍がないなら」(Imagine there's no country Above us only our cities 如果只有城籍而沒有国籍)というテーマ。2014年の「雨傘運動」を経て、中国共産党の支配が強まる中、香港のアイデンティティを問うている。(会期は8月01日-9月06日, 2015) 参加アーティストは、陳翊朗 Oscar Chan Yik Long, 鄭婷婷 Cheng Ting Ting, 程展緯 Luke Ching, 鍾正 Mark Chung, 禰善勤 Chris Huen Sin Kan, 林愷倩 Lam Hoi Sin, 劉衛 Lau Wai, 吳家俊 Ng Ka Chun, 曾家偉 Eason Tsang Ka Wai, 鄧國騫 Tang Kwok Hin, 黃榮法 Morgan Wong, 葉建邦, Elvis Yip Kin Bon

陳翊朗 Oscar Chan Yik Long の「如是者」(Like

a Ghost) 2015 は叫んでる人型の喉や胸、腹に「中国」「香港」「中国人」「英国国民」と書かれたネオンライトを点ける。中国共産党支配と中国人としてのアイデンティティで苦悩する香港人の姿を描いている。

程展緯 Luke Ching のビデオ作品「母体 Matrix」2015 は石の上に立った五星紅旗が吹き消される。その後十字架が現れる映像で、香港人の正に母体を象徴的に表している。

鄧國騫 Tang Kwok Hin, の「冷板—辦公室椅, 香港特別行政區立法會紀念品」2015 では香港特別行政區立法會事務室の椅子のスポンジを物の形に切り抜いて、様々な記念物品をはめ込んでいる。立法会の無力化、直接普通選挙実施への困難さなどの問題を考えさせる。

葉建邦, Elvis Yip Kin Bon の「底線—喬曉陽 2013年3月24日の発言の抜粋」2013-2015 では260件の新聞からの切抜きを展示した。全国人民代表大會法律委員會の喬曉陽主任はこの日、香港の指導者は「中国共産党綱領に反する企ては許されない」と言明する一方、「反対姿勢が北京への批判を意味するものとは必ずしもとらえていない。中国にとって望ましいものなら、どんな批判も許容される」と語った。しかしカタログには喬曉陽の発言の(7)が引用され、香港の利益のためにも中央に反抗するような行政長官を選んではいけないと述べている。^{xvii}「底線」という表題は喬曉陽の「中央に対抗する人間を行政長官に任ずることは許されない。これは香港行政長官普通選挙計画の基本的ラインだ。」

(不能允许与中央对抗的人担任行政长官, 这是设计香港行政长官普选方案的一条底线。)から来ている。正にこの部分が民主的選挙に違反する。その後1国2制度が揺らぎ始め、中国共産党による香港支配が明確となってきた。2014年には「雨傘運動」が起こり、民主的な香港を守るために、中国共産党支配に反発した。葉建邦, Elvis

Yip Kin Bon はこれまでの経過を新聞記事を使って表現している。

大胆な作品はないが洗練された表現技法で香港の今日の問題を浮き彫りにしていた。

9月3日(木) 尖沙咀北京道69の1908書屋、興味のある本がいっぱい。艾未未 艾曉明のドキュメンタリーDVDもある。

ベン・ブラウン ファインアーツでアイ・ウェイウェイ蔡國強らのグループ展「チャイナ アサマーショウ 2015」を見た。

著名な作家ばかりだが、商品化していて大して面白いものはなかった。

Ben Brown Fine Arts Hong Kong 2015年07月18日・09月10日 China - A Summer Show 2015 艾未未 Ai Weiwei, 蔡國強 Cai Guo-Qiang, 陳維 Chen Wei, 郭鴻蔚 Guo Hongwei, 管偉邦 Koon Wai Bong, 徐冰 Xu Bing, 嚴培明 Yan Pei-Ming, 葉凌瀚 Ye Linghan 張洵 Zhang Huan.

10月11日(日) 永青文庫で春画展(会期:2015年9月19日(土)~12月23日(水・祝))を見た。

ろくでなし子は春画について以下のように述べている。「春画は、女性が主体的、積極的に性を謳歌する作品が多く、性交の組み合わせも老若男女、同性、妖怪との性交まで(!)網羅され、ジェンダーも超えた「公平」な芸術作品と考えます。モザイクをかけられることもなく、嫁入り道具として江戸時代のお姫様も普通に手にしていました。性におおらかだった日本が、今、何故この様になってしまったのか?」^{xviii}

『美術手帖』では:春画を特集し、ここでの鼎談では^{xix}「性交描写・「交わり」の描写のこだわ

りと探究心がハンパない！ 開放的・性を楽しむ江戸女子たちが幸せそう。笑える - バカバカしくてツッコミどころも満載！ めでたい - 春画のエロには学ぶことがたくさんあった!!」とし、ろくでなし子は「あつけらかんとした魅力は日本の沈滞ムードの中で欠けているものだ」と指摘している。

また 2014 年、作品が猥褻だとして問題になった^{xx}鷹野隆大とろくでなし子の対談^{xxi}で鷹野隆大は江戸時代にもハイアートとローアートの 2 つの流れがあり、ハイアートの狩野派や琳派はエロの要素は無く、花鳥風月に取り組んでいるが、浮世絵はローアートであり、狩野派から疎んじられたこと、そして現代アートにも同様の差別があると指摘する。これに対してろくでなし子は東京藝術大学でのシンポジウムで、「鷹野さんはアーティストだから応援するけど、ろくでなし子はアートじゃないから…」という冷ややかな空気があったと言っている。

ファインアートとは見なされない面で春画などの浮世絵とろくでなし子アートの共通点を見出せるだろう。

逆に言えば純粋なアート、ファインアートはその非社会性から体制から支配され、プロパガンダに利用されることとなる。後に述べる藤田嗣治らの戦争画は真に体制に利用された例だ。ここが近代美術の限界であり、終焉である。そして新たな現代アートの始まりといえる。体制側は支配できないものは弾圧に回す。春画もろくでなし子アートもファインアートの領域にないからこそ支配されないとも言えるわけである。

10月14日(水)は横浜美術館で蔡國強「帰去来」展(会期:7・11・10・18)を観た。

蔡の火薬絵画「人生四季」は江戸時代の絵師、月岡雪鼎の春画「四季画卷」に着想を得たもの

だ。月岡雪鼎の「四季画卷」では四季が女性の一生になぞらえられていて、春にはまだ幼く無毛の女が足を伸ばして性交を拒み、夏には大人になり、少し足を曲げて性交を楽しみだし、秋には妊娠していて、男女が一体となり絶頂を楽しむ、冬には成熟した女性になっていき桃色だった性器も紫色になる。蔡は春画が「一瞬の描写ではなく、人間の変化していく感情や欲望を描き、過ぎ行く時間に重きをおく」ことを評価し、それは東洋哲学の時空一体の概念を含んでいると言う。^{xxii}

蔡國強は気づいてはいないが、こうした作品化はローアートをファインアートへと吸収する行為だと思われる。その良し悪しは別として、蔡は春画の持つ社会批判性を去勢してしまっていると考えられる。

10月17日(土)ワタリウム美術館に Don't follow the wind (DFW) 風を追うな サテライト展 「Non-Visitor Center 展」(会期:2015年9月19日(土) - 11月3日(火))を見てきた。^{xxiii}この美術展の元の美術展は 2015年3月11日から福島県の帰還困難区域内の4か所で開催されている(はずである。)だが誰も見に行くことはできない。「今は見る事の出来ない美術展」である。だが帰還困難区域の指定を解かれた場所にある会場から順次直接の鑑賞が可能になる。「まだらに」鑑賞できるようになっていくが、それがいつになるのかは定かではない。しかし展覧会は永遠に続いていく。美術展のテーマは現実への問題提起、福島原発事故と被災者に寄り添う態度ではないだろうか。発案は Chim ↑ Pom、参加アーティストは、艾未未(アイ・ウェイウェイ)、Chim ↑ Pom、グランギニョル未来、ニコラス・ハーシュ&ホルヘ・オテロ=パイロス、小泉明郎、エヴァ&フランコ・マッテス、宮永愛子、アーメット・ユグ、ト

レヴァー・パグレン タリン・サイモン、竹川宣彰、竹内公太、園子温* 宇川直宏* 加藤翼* (*は、「Non-Visitor Center 展」のみの参加。キュレーターは窪田研二、ジェイソン・ウェイト、エヴァ&フランコ・マッテス。

自身もグランギニョル未来として美術展に参加している榎木野衣はカタログに興味深い論考を寄せている。^{xxiv}

まず「放射能」は「概念」、「放射性物質」は物理的「対象」、「放射線」は具体的な「能力」といえるがそれぞれ「美術」「作品」「美術の力」(感受・鑑賞・感動)に呼応する。そしていま美術作品は放射性物質へと重なっていく。異質な領域の両者を束ねるにはメタ概念としての美術・能=放射能が必要となる。こうして「みえるもの」と「みえないもの」との境界を、頭の中で重ねることができる。そしてワタリウム美術館の「ここ」(「同じ作品」の「別の有り様」ノン・サイト)と福島の「よそ」(「特定の場所」サイト)はめまぐるしく出会い、交流し、その意味と意義を刻々と変化させる。作品は帰還困難区域という置き換えの不可能なサイトと密接な関係を持ち、さらに放射性物質と一体化し、時の経過の中に投げ出されている。逆に美術館が「ノン・サイト」であることが発見されるが、この「ノン・サイト」の方が特殊な場所であるとわかる。複製的な対象も「ノン・サイト」にある事で「サイト」との互換性を持ち、本体としての作品と同等の価値が与えられる。「サイト」と「ノン・サイト」はたえまない可動性を持ち、めまぐるしく往還しうる。私たちの想像力、美術の力(放射線)はそのような境界越境能力であり、DFW 展は美術の在り方を抽出する。

DFW 展とは「スタート」したが「オープン」はしていない、終始「クローズ」しているが「ス

タート」だけはしている展覧会であり、オープンは不可測な未来だといえる。

美術とはキリスト教の歴史同様に元来観念の世界であり「目に見えない」世界観だった。その後に偶像崇拜、視覚的な絵画、彫刻が現れる。DFW 展を「みに行くことができない」のは宗教とは無関係であり、日本の現実と関係を持つ。巨大地震と大津波にいつ晒されてもおかしくない日本列島に 54 基もの原発を建設し、日々稼働させていたことに由来する。私たち日本列島に棲む者にとっては美術館「ノン・サイト」という架空の抽象的な空間、美術をめぐる安住の地は存在しない。DFW 展は日本列島をめぐる自然条件に多くを負う展覧会にほかならない。この「汚れちまった」土地で、西洋由来の「美術」がいかにして可能かを試す、最初にして最後の機会とならなければならない。

榎木野衣はアースワークを提唱したロバート・スミッソンの「サイト」「ノン・サイト」の概念を用いて DFW 展を説明するが、最後には「ノン・サイト」の概念が日本列島という環境には通用しないと指摘し、現実を痛烈に批判している。とすれば、この美術展は「被災者に寄り添う」などというなまやさしいものに止まらず、原発再稼働への批判を根底に持つ社会的意義の深い表現であることが明らかとなってくる。艾未未は四川汶川大地震で倒壊した校舎の下敷きになって亡くなった子どもたちの名簿をつくり、現在も毎日子どもたちの誕生日を記念している。そして手抜き工事の校舎の問題を提示し続けている。艾未未がこの展覧会に参加した事には、その問題点を追及する姿勢に共鳴したからだろう。



11月26日(月)麻生晴一郎先生「艾未未アイ・ウェイウェイ発言の周辺」と題しての授業。

艾未未への批判については筆者自身が「艾未未2015—体制は醜悪に模倣する」に書いたので、^{xxxv}公民運動に関する問題に絞って以下に麻生さんのレジュメから抜粋したい。

○人権派弁護士・関係者に対する弾圧：7月以来11月6日時点で人権弁護士、活動家の逮捕、拘束、軟禁(37人)、出国制限(25人)一時拘束・呼び出し(255人)されている。弾圧方法は基本的に変わらない。拷問も健在だ。

○艾未未と民主派作家、人権派弁護士との相違点は以下の3点にある。

(1) 現代アートと民主化運動、公民社会との違い：現代アートは1970年代末期の「北京の春」、1989年の「民主化デモ」、2003年～2010年頃の「公民社会」など社会状況と密接に絡みながらも一線を画す。

(2) 民主派作家たちは艾未未を民意、世論、民衆の支持の面で注目してきた。

(3) 艾未未は民主化関係者と関わりを持ちながらもあくまで「公民社会」の中のネット言論におけるカリスマで、民主化と「公民社会」を

民意という点で結びつける存在だった。

○民意の動向

インターネットによる政府批判、中央・地方政府と争う公民社会は現在の弾圧の中で沈静化している。習近平が民心を得ていることを示す習近平支持者の言動が目立つ。反対言論への弾圧、宣伝工作の影響はあるが、すべてその影響かは疑問である。

○公民A(反外国・愛党)、公民B(民主・反一党独裁)を分けると、農村・地方は公民Aが多い。公民A：人民よりも公民意識が強く、その上で外国の民主主義を普遍価値とする考え方になじみがなく、社会主義を支持する人たち・・・陳情者の大半、烏坎村など農村デモの多数。農村の市民活動家の多くがそうだ。

○末端の真面目な政府職員

城鎮の再開発を進めるため今、休む日もなく連日夜遅くまで働いている。最も頭が痛いのは村民使用の土地の買い上げをすることで、なぜなら大半の土地の使用者がここに長年いないからだ。連絡先がわからない家も多く、大都市に出張して探したケースもある。全員の了解を得ないことには先に進めない。大変なプレッシャーだが、末端の政府機関は欧米と違った意味で民

主的だと思う。(信陽市郊外の政府職員)

一党独裁の弊害：社会全体が党のコントロール下にあるため

(1) 不真面目な地方幹部が不正をしやすく、取り締まられにくい。

(2) 真面目な地方幹部は多忙で、それでも仕事が行き届かず、問題が解決しない。

○習近平の統治方法は下記の(1)、(2)の(1)

(1) お上りが乱れているから庶民も乱れる→お上りがしっかりして庶民を教育(上からの改革)

(2) お上りが乱れても安定した社会(政府を監視するマスコミ、市民社会)を建設(横からの改革)

～中国では～→1990年代までは(1)が普通。

→21世紀に(2)の市民社会的な活動・言論が台頭(公民社会)。一方、党の威信の低下、混乱。

→習近平政権は(1)を強引に復活させようと邁進している。……あらゆる活動を党の支配下に置いた上で、党が品行方正に中華復興を目指すことに邁進する。

→先の公民A、真面目な公務員は習近平を支持しやすい。

○艾未未発言の背景？：イギリスで半年ビザ発給を犯罪歴が理由で拒否される。

民主国家の融通の利かなさに辟易していることも考えられる。

現代アート、インディペンデント映画関係者は海外で中共の弾圧の話ばかり質問される傾向がある。

○いずれにせよ、今の中国で政権と対立しては活動がしにくい。

市民活動弾圧：法律に触れるから規制するのではなく、規制するために法律に触れさせる。(活動内容不問)(例)立人郷村図書館(昨年弾圧)、北京益仁平中心(今年弾圧)

12月3日(月)「アイ・ウェイウェイは謝らない」監督アリソン・クレイマンさん、プロデューサー、コリン・ジョーンズさんの授業を実施した。「アイ・ウェイウェイは謝らない」Never Sorryは2012年サンダンス映画祭審査員特別賞を受賞、ベルリン国際映画祭の正式出品作品。作品への感想では「自分の社会の問題を反省した」というものが、監督にとって最高だとのことだった。何回見ても気がつかなかった映像の細部や映画の撮影秘話を教えてくれた。学生の皆さんからも積極的な質問が出て、いい話し合いになった。

アリソン・クレイマンさんの話で何点か初めて知ることがあった。まず撮影のきっかけは2008年北京草場地三影堂フォト・アート・ギャラリーで開催された艾未未のニューヨーク時代の写真展だった。ここで美術展紹介用の動画を撮ったのを手始めにドキュメンタリーを取り出した。まだ若くアメリカ人である自分にとっては同じ20歳代のニューヨークでの艾未未との出会いは作家を理解する上での好スタートだった。作品になりそうだという手ごたえは艾未未と母高瑛との場면을撮れた時に感じた。内緒でフィルムを回したが、後で咎められることはなかった。

ニューヨーク国連ビル付近での1989年64民主化運動の映像はアーティストの張宏圖が提供してくれたものでニューヨーク時代の艾未未が映っている貴重な映像だ。

2000年のFuck Off展の映像はアーティストの張志超が提供してくれた。

現在は葉海燕、艾曉明、高瑜ら女性運動家のドキュメンタリーを友人が制作中でプロデューサーとして協力している。

洪晃は映画監督陳凱歌の元妻だが、母親が毛沢東の通訳を勤めていた。それで毛沢東の隠し子

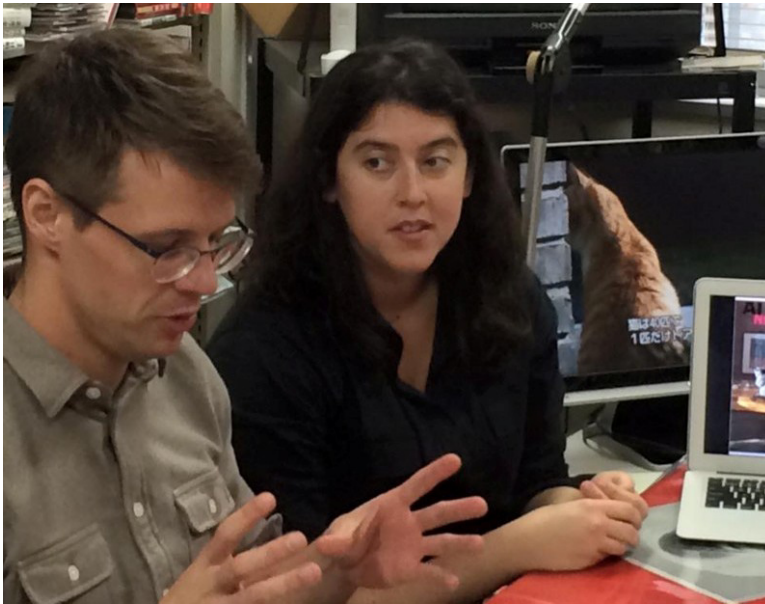
ではないかという噂がある。

陳丹青も洪晃も外国籍であり、文革や 64 天安門事件の責任を追及して、中国政府を全く信じてはいない。

2010 年のスノーデン事件以来 艾未未はアメリカに対して批判的になった。一方で中国政府の側は艾未未批判がし易くなったと思われる。

撮影時の一番の危機は 3 度目の成都で起きた。裁判所から艾未未が出てくる時、警察が暴力を

振るう決定的な映像だが、アリソンさんは道路のタクシーの中から遠巻きにこっそり撮影していた。そこに警察が来てパスポートをよこせと言ったが、渡してしまえばアリソンさんは記者のビザだから身元がばれて撮影できなくなる。更に彼らはカメラを奪おうとした。とっさに中国語がわからない外国人の振りをして時間を稼ぎ、空のテープに取り替えて警察に渡した。



12 月 6 日（日）MOMAT コレクション特集：藤田嗣治 Foujita Tsuguharu、全所蔵作品展示（会期：2015.09.19-12.13）を見に行く。美術評論家連盟の総会。榎木野衣氏らと話す。

榎木野衣は会田誠との対談『戦争画とニッポン』^{xxvi}で「日本の戦争画を、過去の過ちとその反省のための材料や、その裏返しでしかない美術史的な再評価といった次元を超えて、硝煙の匂いさえ漂い始めた、生々しい 21 世紀という「今」の中で、あらためて考えてみる—それが、私たちに切実に突きつけられている、真の課題なのではないか。」と提示している。現政権の安

保法案の強行採決、辺野古の新基地建設など平和憲法を無視して強引に展開される「戦争のできる国」への方向を痛烈に批判している。

また藤田嗣治の「アッツ島玉砕」などの作品について「藤田は一旦、軍の意向に従って戦争画を引き受けたうえで、誰よりも熱心に戦争画に取り組む姿勢を見せ、ちょっと周囲が口を挟みにくい雰囲気を作っておいて、他の人では許されない絵をあえて描いた可能性もあるんじゃないか」と仮定している。また会田誠は「藤田は、日本が戦争でどうやら負けそうだという予感もあつたでしょうけれど、それと同時に、人類全

体の不安みみたいなものも感じていたんじゃないか」と述べる。

また骨格を描く訓練のない草食系で、動的油彩絵画の伝統のない日本人は世界でも一番戦争画に向いていない民族なのではないかと仮定している。

『BT 美術手帖』特集：絵描きと戦争で、^{xxvii}1970年代から戦争画と向き合ってきた菊畑茂久馬は「戦争画なんて見たくもないという絵描きが山ほどおったなかで、あれに決着をつけなきゃ戦後の僕は嘘になる」と語っている。また絵には殺戮を描くところまでいく悪魔性を持っているということを指摘している。

ところで『週刊金曜日』が「禁忌（タブー）のゲージツ 春画と戦争画」という興味深い特集をしている。^{xxviii} アライ＝ヒロユキは「春画と戦争画はネガとポジの関係にある。日本近代は前者を忌避し、後者を称揚した」と指摘する。^{xxix}そして春画が公権力にとって忌むべき存在だったのは、日本近代美術のもついびつさが原因にあると指摘する。そして近代美術では文人画と浮世絵が日本画に取り入れられなかったが、西洋画の裸体画は西洋由来の「純粋な美術」として認められた。このロマン主義的な芸術信仰は社会批判の視点を欠くからすぐに戦争画に利用されたとする。また弾圧は風紀紊乱に止まらず、生そのものの管理を志向することを指摘し、ろくでなし子事件をはじめ昨今表現の自由が冒されている事を強調した。そして春画が現代の美術の枠組みに疑問符を突きつけると言う。確かに戦争画は正に体制の側に利用され、春画は体制に忌み嫌われている。両極端な美術展が2015年に集中し、目立ったことは、現政権への危機感の反映とも取れるだろう。

永青文庫理事長の細川護熙は春画が「嫁入り

道具、子孫繁栄、五穀豊穡、火除け」としての意味を持ったことや、ポルノとは違って男性視線ではないこと、昔はお正月に笑い絵といって春画を配ったこと、かつての性は大らかで笑って楽しんだことを紹介している。

柴田英里は西洋の春画評価には、非西洋圏の文化を異質なもの、不気味なものとして規定する西洋中心主義的な視線を多分に孕む「オリエンタリズム」があるのではないかと指摘する。また戦争画を独占したのは「男性画家」だった。それは出世の近道であり、生存戦略だった。とし、その非対称性を指摘した。

富山妙子は性の解放には、女の立場と尊厳を考える必要がある。植民地に落とした深い陰、強制連行、「慰安婦」、満州に残された残留孤児—さまざまな悲しみが、女には戦後になって初めて悲しみとして見え始めた。男は戦争画を描き、女は戦争の痕跡を、棄てられた者の弔いを描いた、と述べている。

以上 2015 年筆者の観覧した美術展をたどってきた。安倍政権が軍国主義化し、戦前の明治時期の「強い日本」の伝統に回帰し、先の大戦を無かったことにする歴史観を持つことは、しばしば指摘される。南京虐殺や日本軍慰安婦問題を隠蔽する態度がその表れだ。2015 年開催された「春画」展は江戸の大衆文化こそが日本の伝統文化だと捉える方向性の表れとみるのが可能だろう。それは好戦的な明治の帝国主義の対極にあるものだろう。また独裁とも対極にある大衆文化だ。

ろくでなし子アートはその意味で言えば正に江戸大衆文化の再来であり、ファインアートが体制に利用され藤田嗣治の運命を辿った事と対照的だ。また中国の艾未未アイ・ウェイウェイが大衆の支持を得てパスポートを取り返すに至ったのもまた中国の世論の強さがそうさせたとも

言える。

会田誠の作品は安倍を嘲笑するものにうつるのは当然だが、日本の戦争への加担を可能にする約束を、アメリカの議会で、庶民の同意も無く勝手に約束してよいのかという疑義もアートを通じて公開され、また問題視されている。またこの表現が弾圧を受けるのか受けないのかということも試される。それは表現の自由を探った行動とも言えるだろう。

さらに Chim ↑ Pom らの Don't follow the wind は福島の帰還困難区域で見に行けない美術展を開催することで、移住を余儀なくされた人々に「寄り添う」。そして政府の原発再稼動という方向性に疑問を投げかける。情報を隠蔽され解らなくされている放射線をアートの方法で見せようとする。これは彼らが福島原発事故とその後を知るといふ私たち庶民の責任だ。ここでもまた独裁に対峙するアートの方向性が見えてくる。藤田嗣治の戦争画も果たしてそれは戦争をたたえるものなのか、悲惨を描き反戦を意図するのも思考させた。ここがアートの領域だと思われる。ただ近代美術がその純粋さゆえにプロパガンダとして体制に利用されることは明らかだろう。よって現代アートの方向性が見えてくる。それはろくでなし子アートのようにローアートの道を自覚的に進むか、Chim ↑ Pom らのように方法として従来のアートの枠から少しでもはみ出して表現を転換するかなのだろう。2015年はアートの態度が明確になったという点で非常に重要な一年だったのではないだろうか。

i ニコン裁判とは名古屋市在住の韓国人写真家である原告 安世鴻さんが、2012年、中国に残された朝鮮人元「日本軍慰安婦」を題材にした写真展「重重—中国に残された朝鮮人元日本軍『慰安婦』の女性たち」を新宿ニコンサロンで開催する予定であったところ、会

場を運営する株式会社ニコンに多数の抗議等があったことを契機として、ニコン側から急遽中止通告がなされたという事件。

FB 教えて！ニコンさんの会

ii 「表現の不自由展」1967

展示を拒否された作品が並ぶ『表現の不自由展』で、過剰な自粛を考える

文：武田砂鉄

<http://www.cinra.net/review/20150123-hyogennofuiiyu>

iii 安さんは慰安婦がテーマの写真展をニコンに応募。ニコンは2012年5月までに、東京と大阪の「ニコンサロン」での展示を認めた。新聞に告知記事が載ると批判の電話があり、インターネット掲示板に不買運動の呼び掛けが書き込まれた。このためニコンは役員が対応を協議。「在日特権を許さない市民の会」（在特会）の別企業への抗議行動の動画を見て写真展の中止を決めた。

ニコンが日本軍慰安婦をテーマにした写真展を一方的に中止したのは違法だとして、韓国人写真家の安世鴻さん（44）が約1400万円の賠償などを求めた訴訟の判決で、東京地裁は25日、ニコンに110万円の支払いを命じた。谷口園恵裁判長は「一方的な中止は表現活動の機会を失わせることになり、回避できない重大な危険がある場合のみ認められる」との判断を示した。

<慰安婦写真展中止>ニコンに賠償命令 東京地裁
毎日新聞 12月25日(金)20時40分配信

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20151225-00000089-mai-soci>

iv 安世鴻「重重—中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たち」パンフレット

v 岡本有佳「一番大切にしたこと それは意思疎通が出来るアート—表現の不自由展《平和の少女像》の意味」『ミリネ通信』2015年 No.79
《少女像》はどのようにつくられたのか？ ~作家キム・

- ソギョン、キム・ウンソンの思い
<http://linkis.com/fightforjustice.info/fjCx6>
- vi 「艾未未アイ・ウェイウェイ インタビュー アーティストとして/民主活動家として」『週刊読書人』3075号 2015年01月30日08面
「アイ・ウェイウェイ インタビュー (2015年03月) ろくでなし子、芸術の表現、フェミニズム…」『週刊読書人』3086号 2015年04月17日07面
- vii 2013.12.13 天下のNHKでもまんこが取り上げられていた! ~その時、まんこの黒歴史が動いた~
<http://mess-y.com/archives/5077>
- viii 牧陽一「ろくでなし子事件に関する意見書」『埼玉大学紀要教養学部』51巻1号
<http://linkis.com/saitama-u.ac.jp/dgIpe>
- ix 艾未未展:アーティスト:艾未未 キュレーター:崔灿
灿:日期:2015年6月6日-9月6日 後に12月6日まで延長 当代唐人艺术中心 常青画廊
Artist: Ai Weiwei Curator: Cui Cancan Opening: 14:00-19:00 June 6(Sat), 2015
Duration: June 6-September 6, 2015 Venues: Tang Contemporary Art and Galleria Continua
- ARTiT 2015年7月30日
中国における初の艾未未の個展開催は艾未未事件の句読点なのか? 文 / 牧陽一
http://www.art-it.asia/u/admin_ed contri13 j/K2u5wxQNtFa9b6vn7YmT
- ARTiT 2015年7月30日
中国での初個展『艾未未』展をめぐって-艾未未インタビュー
インタビュー / 蘇晏 (翻訳、解説 / 牧陽一)
http://www.art-it.asia/u/admin_ed contri13 j/n7FrI MXEC9vjQ6RoWicP/
- x ARTiT 2015年7月7日 対談: 艾未未×ろくでなし子 企画、文、訳 / 牧陽一
- http://www.art-it.asia/u/admin_ed contri13 j/lo2GjvtpL9N6T7b0MV85/
- xi 彪 艾未未 Tiger, Tiger, Tiger Ai Weiwei : 2015年06月13日-2015年08月31日: 北京前波画廊: 北京市朝阳区草场地红第一号D座, 100015 電話 86 (10) 5127 3298
Exhibition Time: June 13, 2015 – August 31,
2015 Opening Reception: 3:00 - 6:00 pm, June 13,
2015 Venue: Chambers Fine Art Add: Red No.1-D, Caochangdi, Beijing 100015, China Tel: + 86 (10) 5127 3298
- xii ARTiT 2015年7月30日
中国における初の艾未未の個展開催は艾未未事件の句読点なのか? 文 / 牧陽一
http://www.art-it.asia/u/admin_ed contri13 j/K2u5wxQNtFa9b6vn7YmT
- xiii 牧陽一「艾未未 2015—体制は醜悪に模倣する」石井知章・緒形康 編
『アジア遊学 193 中国リベラリズムの政治空間』勉誠出版 2015年12月
- xiv 公開制作 65 パルコキノシタ スウィート・ヒアアフター
http://www.city.fuchu.tokyo.jp/smph/art/kokai/kokai_uitiran/parcokinoshita.html
- xv BEYOND STUFF 2015年7月15日(水)-2015年8月22日(土)ミヅマアートギャラリー ARTiT2015年7月10日
http://www.art-it.asia/u/admin_ed pics/X46fv02ugHGv8nBx3mTh
- xvi ARTiT 2015年8月1日
Mario A/ 亜 真里男「会田誠、東京都現代美術館による撤去要請の経緯明かす クレーム (続き)」など
<http://www.art-it.asia/u/sfzt/pm/qXMAAt6UswRQT WkxgzHf>

- xvii カタログでは(七)不能允许与中央对抗的人担任行政长官，这是设计香港行政长官普选方案的一条底线。守住这条底线，不只是为了国家安全和利益，从根本上讲，也是为了维护香港利益，维护广大香港同胞、投资者的根本利益。香港的经济繁荣与发展，从来都离不开内地，离不开中央政府和内地各地区的支持。香港回归以来，两地的经贸关系、社会文化交流、人员往来越来越密切，这种不可逆转的大趋势，是香港在历史性转折关头继续保持社会稳定、经济繁荣的重要因素。试想，如果选出一个与中央对抗的人当行政长官，与这种大势背道而驰，大家可以预见，届时中央与特区关系必然剑拔弩张，香港和内地的密切联系必然严重损害，香港社会内部也必然严重撕裂，“东方之珠还会风采依然”吗？
- xviii マンガ家・ろくでなし子 HP
<http://6d745.com/page/2/>
- xix 辛酸なめ子×峰なゆか×ろくでなし子「オトナ女子の春画講座」『BT 美術手帖』67 巻総 1028 号 2015 年 10 月号
- xx 愛知県美術館「わいせつ写真に布」の波紋 THE PAGE 2014 年 8 月 22 日(金)10 時 51 分配信 名古屋市中東区の愛知県美術館で開催中の写真展「これからの写真」で、鷹野隆大の作品「おれと with KJ#2」(2007)などが「わいせつ物の陳列にあたる」と匿名の通報を受けた愛知県警から指摘され、作品の一部を覆い隠すなどの対応を迫られた。ネット上では「表現活動への不当介入だ」と警察への抗議や指示の撤回を求める署名活動も展開された。「芸術とわいせつ性」をめぐる事件。
ネット上では写真家の有志らが即座に署名活動を始め、「表現の自由の危機だ」「県警は判断のプロセスを公開するべき」などの声が集まった。鷹野隆大はネットメディアのインタビューで、検挙の対象が自身ではなく美術館の職員だったと明かした上で、「美術館の表現の自由が侵された」「行政の安易な介入だ」と警察の対応について苦言を呈した。
<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20140822-00000011-wordleaf-soci>
- xxi 鷹野隆大・ろくでなし子対談「ワイセツって何？」『週刊読書人』3096 号 2015 年 7 月 3 日 (金) 1・2 面
- xxii 「アーティストが選ぶマイベスト春画 月岡雪鼎×蔡國強」『BT 美術手帖』67 巻総 1028 号 2015 年 10 月号 p40,41
Pen Online 2015.08.07 「空間を満たす多彩なストーリー、横浜美術館「蔡國強展：帰去来」を觀よ！」
<http://www.pen-online.jp/feature/art/cai-guo-qiang-there-and-back-again/3/>
- xxiii ワタリウム美術館に Don't follow the wind 風を追うな サテライト展
http://www.watarium.co.jp/exhibition/1509DFW_NVC/index2.html
- xxiv 榎木野衣「「美術と放射・能—Don't follow the wind 展の旗が立つ位置」 『Don't follow the wind 展覧会公式カタログ 2015』河出書房新社 2015 年
- xxv 既出 牧陽一「艾未未 2015—体制は醜悪に模倣する」石井知章・緒形康 編
『アジア遊学 193 中国リベラリズムの政治空間』勉誠出版 2015 年 12 月
- xxvi 榎木野衣×会田誠『戦争画とニッポン』講談社 2015
- xxvii 「インタビュー菊畑茂久馬—目覚めよフジタ（開き手：榎木野衣）」『BT 美術手帖』特集：絵描きと戦争 67 巻総 1026 号 2015 年 9 月
- xxviii 『週刊金曜日』1063 号 2015 年 11 月 13 日
- xxix アライ=ヒロユキの近著に『天皇アート論—その美、“天”に通ず』社会評論社 2014 がある。牧陽一「汎アジア的アートへ」（書評：アライ=ヒロユキ著『天皇アート論』）『週刊読書人』3064 号 2014 年 11 月 07 日 06 面